所行回第４０２号
回覧　所沢市環境推進員連絡協議会会報　平成２３年３月発行

環境・会報

第 17 号
所沢市環境推進員連絡協議会
発行責任者　会長　斉藤禮次郎
所沢市ホームページ　http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/

東日本大震災　被災者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます

とことん減量・資源化のすすめ

会長　斉藤　禮次郎

環境推進員の皆様には、所沢市の環境を保全するために、行政と市民をつなぐ地域のリーダーとしてご尽力を頂き誠にありがとうございます。

第２期所沢市環境基本計画も平成 23 年度からスタートし、これにより、変化の著しい社会の動向や環境への要求に、より柔軟に対応して行くことが可能となります。この計画では目指すべき将来像として、「望ましい環境像」を掲げ「豊かなみどり　あふれる笑顔　みんなで明日をつくるまち　ところざわ」と設定しています。

現在の恵まれた環境を維持し、育み、次世代に残して行くために、所沢市の環境及び地球環境を総合的な視点で捉え、環境問題への取組みを進めて行く事が必要です。

一方、家庭での CO2 排出削減に直接結びつく活動として、ごみの減量・資源化を徹底的に進め、地球温暖化やそれに伴う異常気象等を防ぐことです。市民一人ひとりが大量生産・大量消費の社会や生活を見直し、ごみの発生抑制（Reduce），再使用（Reuse）,再生利用（Recycle）に基づき、「3R を実践し循環型社会を形成するまち」を目指します。今、ごみの減量・資源化に向けて、分別や資源化を徹底し、更には生ごみの堆肥化や水切り等、これらをとことん実行し、どうしても資源化等が出来ない物のみをごみとして出して頂く、「とことんごみの減量・資源化」に取組んで行きます。皆様のご協力よろしくお願い致します。

ー環境講演会ー
私たちが選ぶ「暮らし・環境・エネルギー」

所沢地区　小泉英治

２２年度環境講演会は、１月２９日（土）午後１時からミューズ中ホールで「私たちが選ぶ暮らし・環境・エネルギー」と題し６５０人の参会を得て行われました。

講師は、科学ジャーナリストの筑波大学非常勤講東嶋和子先生。

斉藤会長挨拶に続き、来賓の当麻市長並びに安田市議会議長より所沢市の環境行政に対する環境推進員の日ごろの尽力に対して感謝と益々の活躍をお願いする挨拶がありました。

講演は、実際に取材した世界各地のエネルギー事情について身近な話題を織り込みながら地球温暖化防止は、「身近で手近なことから」「小さなことから」「賛同してくれる人から始める」住民レベルでの小さなエコへの努力の積み重ねが大切と提案されました。

第二部では「アルパ演奏会」黒岩麻衣子とスタジオアルパの皆様による南米パラグアイの素敵な民族衣装で奏でるアルパは心が洗われるようで特に「コンドルはとんでいくー花まつり」と「コーヒールンバ」には聞きほれました。環境の大切さの勉強をしてもらい、和やかで有意義な半日となりました。

●「エコ・プロダクト 2010　視察報告」

富岡地区　小林輝邇

日本最大クラスの環境展示会へ今年も環境推進員の仲間 40 数名と視察見学に出かけました。早めに着いたと思っていましたが既に大変な賑わいで展示会の注目度の大きさを知らされました。最先端の環境対応製品や環境技術など一同に集めたこの展示会は製品やサービスの普及促進とビジネスチャンスの拡大を目的に 1999 年に開催されたのが始まりです。今回の出展数は 745 社、小間数は 1762 で会期中 3 日間では 18 万人の来場者を見込んでいると報告されていました。主催者の日経新聞は「持続可能な社会を実現する為に何が出来るか」「次の 10 年で何をすべきか」と説明されていましたが小学生の熱心な生徒達には解ったのかなと思いながらその参加人数に圧倒されました。イベントや展示スペースがいたるところに設置され多くのアンケートコーナーから呼掛けがありました。大人も一緒に巻き込まれて、子供達と楽しく時間を過ごされている風景も数多く見られました。

今回の注目度のひとつ、エコ・モビリティゾーンでは話題の自転車を町おこしに利用したり次世代路面電車の最新事情などが報告されていました。生物多様性の話題も、小中学生が興味を示し森林から始まるエコライフゾーンの周りや環境省のコアに集中していました。ごみ大作戦のゾーンにも注目すべきところがありました。また改めて認識したのが環境最前線の「塩ビ素材の環境特性とエコ素材の最適材」の情報でした。最近の環境省の調査研究で 97%のダイオキシンが削減され環境ホルモンとの結びつきもないとの報告がされているそうです。

塩ビ素材はリサイクルにも最適で他のプラスティック材より再生率が高いとの説明でした。その他漁場造成再生資材や海藻に対する鉄分の効果発見や転炉系製鋼スラグの製品化など注目度は高かったように思います。

グループで行っても最後ははぐれてしまい、一人で昼食を食べる状態で誰一人として環境推進員のメンバーに会うことが出来ないほど、会場は広く混雑していた視察会でした。

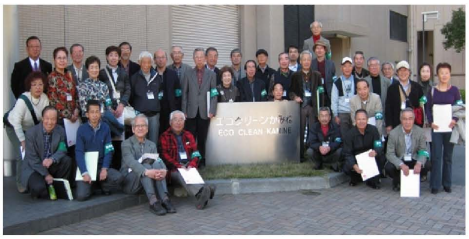
環境推進員視察研修に参加して

新所沢地区　照屋國江

平成２２年度所沢市環境推進員連絡協議会の、１１月１８日（木），１９日（金）茨城県つくば市と日立市において視察研修会を行った。

つくば市役所は、オフィス全体が一望できる開放的な空間に受付カウンターが並び、プライバシーへの配慮の行き届いた相談室と会議室がありました。

私たち一行は、２階研修室に案内され、「つくば環境スタイル」をテキストに市独自の新交通体系の構築、自然環境と都市環境とが調和する田園都市の創出など先進的な実験低炭素タウンの展開等、低酸素化を柱とする温暖化防止行動計画の経緯や経過について市民、企業、大学などと行政が一体となった取り組みについて説明があり、予算の調達、住民とのコンセサス、自転車道路のメンテナンスなどの質問に熱き思いの回答がありました。



午後は、独立行政法人産業技術総合研究所（旧通商産業省工業技術院）の展示館「サイエンススクエアーつくば」では、人間強調共存型ロボットシステムの研究、熱エネルギーを無駄なく電気に変える仕組みや次世代エネルギーである太陽光発電設備などを見学しました。

翌日、日立市の清掃センター「エコクリーンかねみ」を視察、“人と環境にやさしい”をモットーにした処理施設を見学しました。安全と安心を守り続ける最新の設備と最善の方法を導入、焼却に伴う熱エネルギーを電気エネルギーにかえ自家利用するほか、余剰電力を電力会社に売電するなど、運び込まれたゴミは、最新技術で処理されているとのことでした。

今回、視察研修に参加して「たかがゴミ」でなく「されどゴミ」資源としての認識を強く持ったこととグローバルな視点で環境問題を考えさせられた意義深い研修でした。

使用済みプラスチックのリサイクル工場見学

吾妻地区　高橋　功

吾妻地区環境推進員協議会の研修会は、生活環境の保全を自発的に推進し、快適で済みよい環境確保の一助にと所沢市から出されるプラスチックごみの搬入先でもあるリサイクル工場の昭和電工（株）川崎事業所の視察研修を実施しました。

ここでは、ゼロエミッション型使用済みプラスチックケミカルリサイクルという事業を展開している。この事業は、経済産業省及び川崎市の「エコタウン事業」に認定されているということです。ケミカルリサイクルプラントでは、使用済みプラスチックをガス化し基礎化学薬品（アンモニア）を製造している。処理能力は一日当たり１９５トン、年間にすると６４，０００トンという。工場内の見学は、搬入された使用済みプラスチックを粉砕機に投入、粉砕したプラスチックから異物を除去し、原料を成型加工する設備から始まり、ガス化炉で合成ガスに改質され⇒ガス洗浄設備で塩除去⇒ＣＯ転化設備⇒脱硫設備で硫黄除去⇒水素と二酸化炭素を主体とするガス合成⇒最終アンモニア生成という過程をバスで移動しながら説明を受けた。

今回の視察研修では、使用済みプラスチックの単純焼却・埋め立てなどによる環境への影響など、様々な問題を抱えている現在、参加した全員がリサイクルについて改めて見直す機会になりました。使用済みプラは専門業者が入札します。汚れの多いものは安い入札となり、いい値段にするのには一人ひとりがきれいにして出すように心がけなければなりません。

かっぱもよろこぶ柳瀬川

柳瀬川をきれいにする会　並木　常男

埼玉県が進めている“川の再生”は、今年で３年目。「川の国　埼玉」の実現に向け現在、県内１００か所の「水辺再生１００プラン」が進められています。今年も川の再生交流会が埼玉会館で開催されました。当会は、永年の清掃活動による水辺のサポーターとして知事表彰されました。柳瀬川流域の水辺には、林や森が多く、湧水を伴って昭和２０年代までは、川遊びも出来ました。しかし昭和３０年代後半から川は汚れきっていました。かつての清流を取り戻そうと平成２年４月、近隣住民により「柳瀬川をきれいにする会」を設立、第１回柳瀬川クリーン作戦を行いました。その時の皆の顔は幼き日に柳瀬川で遊んだ時の“ガキ大将”の顔に戻っていました。今日、会員の地道な活動により川もきれいになり 20 周年を迎える事が出来ました。こんなにきれいになった柳瀬川！子供たちに川の大切さを知ってもらいたいと２０周年の記念事業として“サケの放流”を企画、今年で３回目の放流になります。小学生の作文に“生命の尊さ”と“サケが戻ってきて“と綴られていました。大人になったとき柳瀬川がもっときれいになっていると希望をつなぐでしょう。

また、アユの放流も３年目となり漁業組合のご厚意により 6000 匹も放流しました。アユ釣りの姿が見られるようになり川清掃の反省会では 24 ㎝にも育ったアユの塩焼きを皆でいただきました。カワセミの姿を見ることができる柳瀬川をいつまでも残すために！これからも活動を続けていきたいと思っています。

「ごみを捨てる奴と拾う人」

柳瀬地区　森田　慶生

雨と雪の天候不順の中、２月１３日（日）午前１０時から関越所沢インター側道付近の重点清掃を行った。いつものように、絶対無事故を合言葉に５７名（市役所からも４人の助っ人）慎重・俊敏に作業を進め１１時半すぎに完了した。

集積したゴミの山を前に不思議な充足感を覚えながらも、ゴミを捨てる奴と拾うものとの戦いは何時終わるのかと溜息をつく。今年は公民館駐車場近くの山林にも放置ゴミを発見し、人間の無神経さに落胆した。10 年続けても改善されず法的な処置もできないのなら、怪我人が出ないうちに清掃活動を中止にしたほうが無難かもしれないと思う

環境コラム　・複合汚染は今・

柳瀬地区　丸山千尋

ジェット機が無事に離着陸できるのも、公衆電話が赤いのも、私が着ている合成繊維の布地が手軽に生産されるのも、みんなカドミュームが効果をあげているからである。

以上は朝日新聞社の新聞小説として“74年10月14日から8か月連載、翌年出版されベストセラーになった有吉佐和子女史の「複合汚染」の一文である。その、あとがきで「私が目的としたのは告発でもなければ警告でもない。一人でも多くの人がもう少し現実について知るべきだと考えたから」と述べている。

有吉女史は背が高く論調も男性的で市川房枝、紀平悌子さんらの参議院選挙も応援しており、この小説もその状況から公害問題の本質にせまっていくという型破りの物語になっている。

ちょうどその頃、日本はイギリス・西独を抜いてGNP第2位、工業製品の輸出で欧米と肩を並べるまでになっていた。当然その報いとして公害問題が続出し“68年5月富山県神通川流域のイタイイタイ病（カドミュームが原因）が公害病に認定され、これに押されるように熊本水俣病（有機水銀が原因）も長い闘争の末、同年9月、公害病の認定を受けた。

「紀ノ川」「香華」などストーリーテラーとして自他ともに認めていた作家があえて主人公も出てこない公害・複合汚染の世界へ足を踏み込み農薬・殺菌剤・殺虫剤・洗剤・添加物・カドミューム・PCB・有機水銀など高度成長期を支えている化学物質について官吏・科学・化学者・医者等を訪ね、その発言を発表した。取材された当人も読者も公害、汚染の酷い実態にたじろいだ。

そのおりの衝撃や当惑を思いおこすとともに40年近く経過した現代の状況を察すると、やはり今、複合汚染がどうなっているのか、気になるところである。

みんなで“きれいに“航空公園外周道路清掃活動

並木地区　丸山信一郎

恒例となった、当環境推進員連絡協議会主催、秋の航空記念公園周辺道路清掃は、22年10月29日（土）午前8時から実施しました。

当麻市長も参加、「大勢の市民の皆様が、所沢市の”ブランドベストワン”に選ばれた、ここ航空記念公園に会し航空発祥100周年を迎えた記念の年に“みんなで町をきれいに”と一堂に会し清掃活動に参加していただくことに大きな意義があります」と挨拶。巡回のかたわら一緒になってたまった落ち葉など収集、清掃活動に参加されておりました。

参加者は、回を重ねるごとに増え平成21年397名、今回は、なんと516名が参加、特に三ケ島、柳瀬、山口地区など遠くから参加が多くあったのも特徴です。当並木地区からは、49名が参加しております。

早朝にもかかわらず参加いただいた皆様、ありがとうございました。

また、記念公園の清掃活動は、周辺住民の方が環境推進員と一緒になって専用のベストを着用して毎月一回、定例清掃をされています。

環境活動年度別実績報告

年度		環境美化の日		古着・古布・陶磁器リサイクル事業		歩きたばこ等の防止啓発キャンペーン	
		参加人員	回収量	参加人員	回収量	日　程	参加人員
19	春	24,189人	70,59トン	9,924人	75,11トン	8月31日	155人
	秋	21,028人	48,66トン	8,921人	62,92トン		
20	春	19,631人	43,89トン	9,916人	60,27トン	7月1日	175人
	秋	20,872人	36,92トン	11,283人	59,67トン		
21	春	24,152人	55,82トン	9,028人	57,35トン	7月1日	230人
	秋	21,783人	38,88トン	10,005人	56,12トン	12月1日	230人
22	春	25,775人	55,36トン	8,269人	55,67トン	7月1日	248人
	秋	23,568人	43,73トン	7,254人	48,3トン	11月30日	256人

編集後記

地震、津波、原発事故と未曾有の大被害。東日本大震災で被災地の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。月日の経過とともに、被害の大きさは、人、物さらに地域力や文化力等など、日本だけでなく、世界中に影響を及ぼしているのに驚愕。公害汚染をとられた、丸山委員「複合汚染は今」で文中「告発でも警告でもない、現実について知るべき」と著者・有吉氏の言を「環境コラム」欄で伝えています。今こそ、培われてきた日本の叡智を発揮、現実を謙虚に受け止め大自然への畏敬の念を忘れず、未来に向けて立ち向かうことが“日本の底力“ではないでしょうか。

（小林・丸山・小泉・毛利）

本会報は白黒版ですが、ホームページではカラー版でご覧いただけます。
環境推進員連絡協議会のページにアクセスしてください。
http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/